



もしかして認知症？



認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったために記憶や判断力の障害などが起こり、生活に支障が出ている状態をいいます。

認知症の初期症状で最も多いのは「もの忘れ」ですが、加齢に伴うものとは次のような違いがあります。

● 認知症と加齢に伴うもの忘れの違い ●

認知症によるもの忘れ	加齢に伴う（普通の）もの忘れ
体験の全部を忘れる	体験の一部を忘れる
もの忘れの自覚がない	もの忘れを自覚している
思い出せない部分に作話が混じる	別の機会に思い出せる
日常生活に支障をきたす	日常生活に支障がある
探し物を誰かが盗ったと言うことがある	探し物を努力して見つけようとする

(認知症介護情報ネットワーク参照)

こんなことはありませんか？

このような症状が続いたら、もの忘れ相談医やお住まいの地域包括支援センターに相談しましょう。

- * 物の名前が出てこなくなった
- * ささいなことで怒りっぽくなった
- * 慣れている道で迷ってしまう
(いつも降りる駅がわからなくなる)
- * 夜中に突然起きだして騒ぐ
- * 以前に比べ、だらしなくなる
- * 同じことを何回も言ったり、聞いたりする
- * 財布を盗まれたと騒ぐ
- * 置忘れやしまい忘れが目立ってきた
- * 簡単な計算ができなくなった
- * テレビの内容が理解できなくなった

早めに医療機関に相談しましょう

認知症は、記憶障害を主な症状とする病気です。適切な診断と治療が必要となります。「年齢のせいだから仕方がない」と放っておかず、早めに医療機関に相談しましょう。受診時には、日頃の状況のメモを持っていかれることをお勧めします。

認知症の診断については、本人や家族から詳しいお話を聞いたり、さまざまなスクリーニング検査やCTなどの画像検査などを実施する場合があります。

認知症の周辺症状としての被害的な妄想、幻覚、興奮、徘徊などの問題行動については、お薬等により改善できることもあるので、まずは受診しましょう。

また、介護の方法やサービス等の相談は、市町村の地域包括支援センターへご相談ください。